

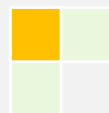
2024

**国際関係学部**  
**国際専門演習 A・B**  
**講義要綱**

2023年11月1日(水)

15:20~

**会場:956 講義室**



# 目次

「2024 年度 国際専門演習 A・B」履修登録について.....	3
伊藤 正晃.....	6
20 号館 8 階 伊藤研究室.....	6
伊藤 裕子.....	7
20 号館 12 階 伊藤研究室.....	7
岩間 優希.....	8
20 号館 8 階 岩間研究室.....	8
于 小薇.....	9
20 号館 10 階 于研究室.....	9
加々美 康彦.....	10
20 号館 7 階 加々美研究室.....	10
高 英求.....	11
20 号館 7 階 高研究室.....	11
澁谷 鎮明.....	12
20 号館 7 階 澁谷研究室.....	12
宗 ティンティン.....	13
20 号館 8 階 宗研究室.....	13
財部 香枝.....	14
20 号館 9 階 財部研究室.....	14
田中 高.....	15
20 号館 8 階 田中研究室.....	15
中野 智章.....	16
20 号館 7 階 中野研究室.....	16

中山 紀子.....	17
20号館12階 中山研究室.....	17
羽後 静子.....	18
20号館7階 羽後研究室.....	18
ハワード ケン ヒガ.....	19
20号館7階 ヒガ研究室.....	19
平井 芽阿里.....	20
20号館7階 平井研究室.....	20
ニコラス ペーテルス.....	21
20号館5階 ペーテルス研究室.....	21
羅 立新.....	22
20号館12階 羅研究室.....	22
和田 知久.....	23
20号館7階 和田研究室.....	23
国際専門演習 A・B 担当教員の研究室.....	24

面談日程表

ゼミ希望票

# 国際学科

## 「2024年度 国際専門演習 A・B」履修登録について

### 1. スケジュール・手続き

- (1) 履修ガイダンス : 2023年11月1日(水) 15:20~16:50  
会場 956 教室【全員参加・時間厳守】
- (2) 教員との面談・選考 : 2023年11月8日(水)~12月1日(金) 15:00 まで  
内定の解禁日は11月24日(金)
- (3) ゼミ希望票提出締め切り : 2023年12月1日(金) 16:00 まで  
20号館3階 国際関係学部事務室まで【時間厳守】
- (4) ゼミの決定 : 2024年1月中旬 キャンパスプラザに掲示  
学部HP(在学生の皆様)に掲載



### 2. 登録にあたって

#### (1) 国際専門演習 A・B の重要性

いわゆるゼミ(国際専門演習 A・B)とこれにつながる卒業研究は、大学における学びを「卒業論文」等の形で総括する極めて重要な科目です。卒業研究の関心領域・テーマはもとより、将来の就職・進学などについてもよく考慮して、希望を出してください。

#### (2) 教員との面談における注意事項

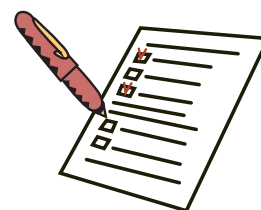
- 1) 本講義要綱に記載されている各教員の面談日程表を見て、指導を希望する演習担当教員に予約を取り、個別に訪れて面談を受けてください。教員によっては「対面方式」以外に、「オンライン方式」で面接をおこなう場合があります。「オンライン方式」での面接を希望する人は教員に伝えてみてください。

- 2) 面談日程表の日時以外にも、教員はみなさんの面談を積極的に受け入れます。教員に直接メールして面談予約をとるなど、自分で積極的に研究室を訪ねてください。追加の面談可能日時や面談の進行状況について、研究室の扉に掲示する教員もいるので、希望する教員の研究室を随時訪問することを勧めます。
- 3) 少人数教育を徹底するため、各ゼミの受入れ人数の上限は12名を目安（受け入れ義務は7名）とします。したがって、必ずしも第1希望のゼミに入れるとは限りません。（7名までは、教員は必ず希望者を受け入れます。7名を越えたら募集を停止することがあります）。
- 4) 選考期間中に内定を出す教員もいます。したがって、選考期間終了前に定員が埋まって募集停止になるゼミもあります。希望するゼミに入りたいのであれば、早めに動き出すことをお勧めします。ただし、内定の解禁は11月24日（金）以降です。なお、1回目の面談で教員が内定を出すことはありません。必ず **3人以上の教員**と面談して、希望ゼミの教員に第一希望であることを伝えてください。内定が出るかもしれません（内定を出すか否か、いつ出すかなどは、教員によって異なります）。
- 5) 教員との面談の前に、大学ホームページの教員情報などで、各教員の研究・教育の専門分野などをチェックしましょう。
- 6) 積極的にゼミ見学を行なうことを奨励します。ゼミ担当教員に希望を申し出てください。ただし授業の都合により、不可能な場合もありますので、ご注意ください。
- 7) 教員に志望をかなえてもらうには、ゼミ希望票に熱意をこめて記入することや、面談時にポートフォリオ（シート&ファイル）を提示することも有効な行動です。

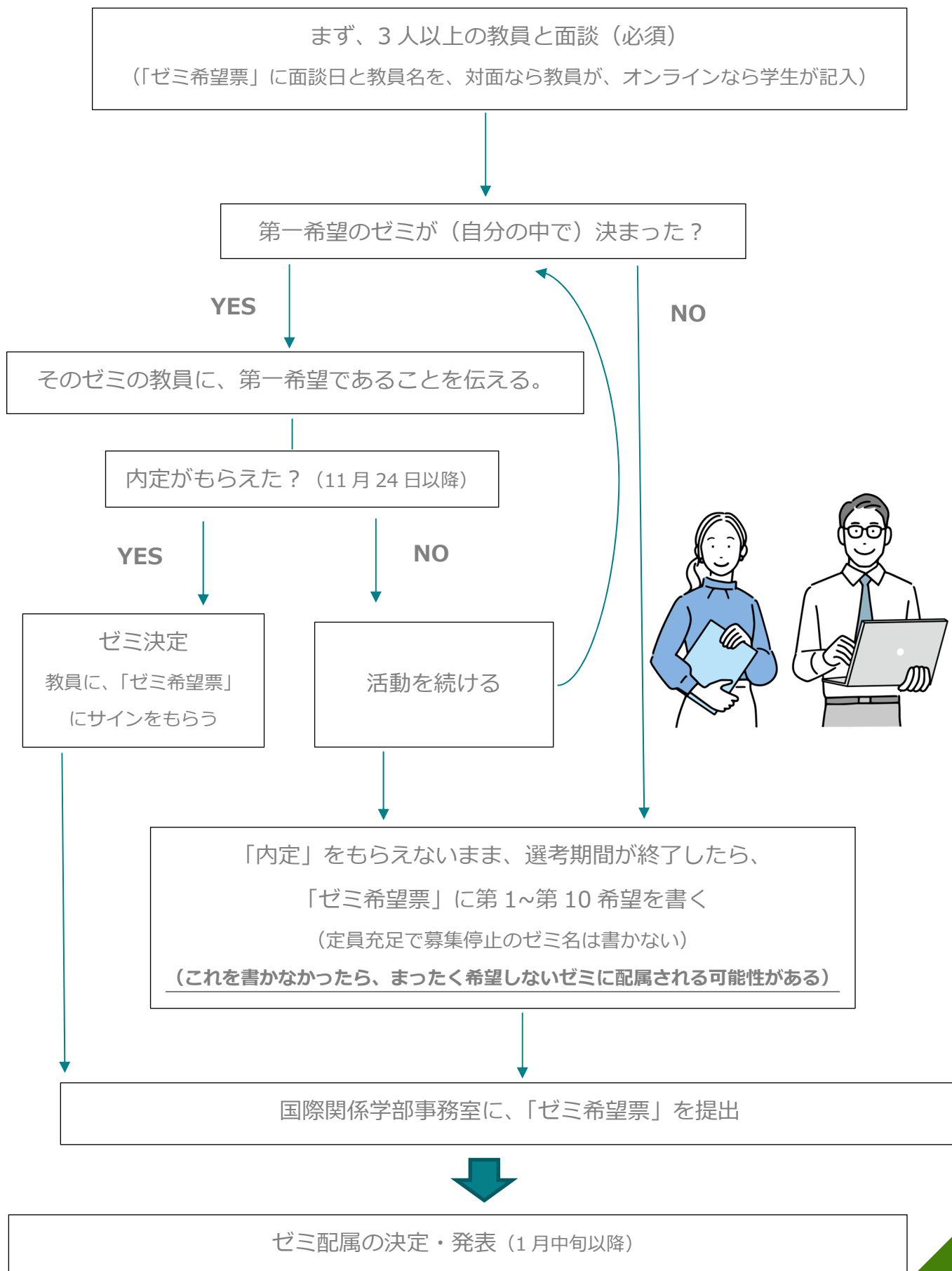
### 3. 連絡先

国際専門演習 A・B 履修や面談に関する相談は、

- 国際学科主任 伊藤 裕子 先生（20号館12階）
- 国際学科主任補佐 于 小薇 先生（20号館10階）
- 国際学科主任補佐 平井芽阿里 先生（20号館7階）
- 国際関係学部事務室（20号館3階 9:00～17:00）



# ゼミ選考の流れ



## テーマ: 己を知り、世界とのつながりを識る(言語・音楽を中心に)

### 【授業の趣旨】

4年時の卒業研究の執筆に必要なテーマ設定、先行研究の検索方法を指導し、論文の作成を指導します。本ゼミのテーマである「己を知る」ことを常に意識し、そして「世界のつながり」にあるように、自分が世の中の何に関わっているのか、どのように役に立つのかを考えていきます。とくに、現在の言語分布に至る歴史を紐解き、人の流れや出来事を理解します。また、言語につながる社会的制度、文化なども取り上げていきます。さらに、音楽との関わりなどは学生と一緒に討論していきたいと考えています。伊藤の研究に関するキーワードは「音声学(音響音声学・調音音声学)、言語学、語源学(語史)、中国語、ベトナム語」で、それに付随するキーワードとしては「ロシア語、フランス語、タイ語、国歌、民族音楽、作曲学、コード学、器楽演奏、多文化共生、地域共生」を挙げます。

### 【授業計画】

3年次春学期はグループワークや簡単な課題を出して、発表/発信(アウトプット)する姿勢を身につけてもらいます。そのために、まずレジュメとパワーポイントの作成指導をおこないます。その取り組みを重ねながら、自分の書きたい論文のテーマを見つけていきます。秋学期では、論文のテーマを発表してもらい、それに関連するキーワードをゼミ内で議論します。テーマが固まった頃に、Wordでの長い文章の作成方法について指導します。

伊藤マサゼミ生では、卒業研究の対象が「オノマトペ(擬声語・擬態語)」「疑問詞」「ビートルズ」「邦ロック」「部活動(野球)」「文字解読」などの言語と音楽の二本柱が主となっています。

母語でない言語に触れたとき、必ず「なぜ？」が生まれます。母語との比較をおこない、「なぜ？」を追究します。このように「言語」について取り扱います。「音楽」の取り扱いについては、授業で簡単な作曲学とコード学を指導します。楽器を演奏することはありませんが、音楽がどのように社会とつながっているか/影響しているのかを追究します。その他の分野は各学生の主体性に任せ、授業では取り扱うことはしませんが、場合によってはクラスで議論をすることもあります。

いずれにしても、「なぜ？」を明確に持ち合わせていることを望みます。とくに、卒業研究に音楽を希望する場合は、早い段階から「楽典」に触れておくことをつけ加えておきます。

### 【面談について】

☆Google・フォームにて面談を申し込んでください。

○本文に、1)面談希望日時、2)中間論文で扱うテーマと内容、3)(現段階において)卒業研究で取り扱いたいテーマ、4)「専願(第一希望)・併願(迷い中)・面談のみ」の別、5)集団面接の可否を記入してください。

※2)と3)については本音を書いてください。当ゼミのテーマ(言語・音楽など)に合わせる必要はありません。



## テーマ: イギリスとヨーロッパを読み解く

イギリスやヨーロッパの多様なジャンルの読み物やフィクション、例えば、評論、文学、映画、劇、オペラ、ミュージカルを理解します。そして読解、分析のための鍵を学ぶと同時に、芸術、文化的背景をさまざまな角度から考察します。

### 【授業の趣旨】

テキスト(文章、映像を含む)を読む力、分析する力、論理的に考える力、そして考えをまとめ、書く力を養います。同時に、テキストの中で表現されている芸術、文化、歴史、社会、生活等について、また映画と小説というメディアの違いを考察します。

### 【授業計画】

時間軸、空間軸ともに異文化であるテキストを読み解いていきます。200年前のヨーロッパ世界とは、大英帝国が世界に覇権を拡張し、豊かな文化が繰り広げられた時代です。100年前になると、ヨーロッパ帝国主義も衰退にさしかかります。この時代、20世紀初頭は、19世紀ヴィクトリア朝の栄華の余韻と古いものの考え方に固執しながらも、文化、斬新な芸術が生み出され、新しい精神性を持った人々がロンドン、パリなどの都市部を中心に活躍した時代です。

授業では、主にこの時代を描いた書物を分析します。毎回受講生はプレゼンテーション(担当箇所の説明、解釈、問題点、疑問点などの発表)を行います。その際レジюмеを作成してください。その後、ディスカッションを行い、映画などの視覚的資料も参考にしつつ比較分析します。日本語訳を使用し、適宜、原書に照らし合わせて、英語での理解も深めます。英語に自信がなくても問題ありません。課外活動(成績評価に関係なし)として、ミュージカルなどの観劇、芸術鑑賞、音楽鑑賞を行います。

### 【成績評価】

各学期において中間レポートおよび期末レポートを課します。成績評価は、出席、授業での発言、プレゼンテーション、中間レポート、期末レポートにより総合的に評価します。演習Bにおける期末レポートでは、各自で選んだテーマについてレポートを課す予定です。

### 【教科書】

受講生の興味に応じて後日指定しますが、今のところ予定している作品は以下のとおりです。

『Dracula』、『Orlando』、『Harry Potter』、『Lord of the Rings』、『Mrs. Dalloway』、『The Time Machine』、『Sherlock Holmes』、『Downton Abbey』、『Kingsman』、『Trainspotting』、シェイクスピア作品、『シンドラーのリスト』、『Titanic』

### 【注意事項】

授業無断欠席は認められない。面談の際、以下の事項について200~400字以内にまとめて提出のこと。ポートフォリオを面談の際、持参すること。Zoom面談も可能です。面談時間帯であっても所用により不在の事があります。面談は、メール予約をした学生を優先します。 [ito@isc.chubu.ac.jp](mailto:ito@isc.chubu.ac.jp)

1)この演習を選んだ理由 2)この演習についての質問 3)卒論を目指して、現在関心のあるテーマについて



## テーマ:社会学の視点から世界を考える

### ゼミの概要

基本的には学生それぞれが好きなトピックについて研究を深めることを主旨としています。その中で、私の専門はメディア学(新聞、テレビ、映画など)ですので、それに関する研究をしている学生が多いです。しかしそれに限定するわけではなく、社会学の範疇に入るものであれば指導可能です。

### 過去のゼミ生の研究テーマ例

旅行ガイドブックに見るスペインイメージの変遷／海外で活躍する日本人サッカー選手についての報道／ウクライナ戦争におけるプロパガンダ／アメリカ銃社会についての報道／政治家の失言／ウェブ炎上／少年漫画におけるヒロイン・イメージの変遷／アニメに描かれる人種差別／大学生のスマホ利用…など

### 授業内容

3年生春学期:興味のある分野について勉強し、文献を読み発表。過去の卒論を読んで「卒論」がどんなものか知る。

3年生秋学期:卒論のテーマを決定し、それに必要な文献を読んで発表。

\* 共同研究や合宿などの予定はありません。自分が興味のあるテーマを一人で探究したい人に向いています。

\* 特別な理由なしの欠席3回以上で不合格となります。

### 面談・選考について

① 面談希望者は必ずメールで予約を入れてください。

アドレス:y-iwama@fsc.chubu.ac.jp (yのあとは半角ハイフン。@以下はiscではないので注意)

② 予約メールでは希望日時を3つ以上、もしくは時間帯を幅広く教えてください。

③ 3人以上の先生と面談をした後、岩間ゼミを第一希望とする人は、「第一希望とする理由」「ほかに面談を受けた先生のサインのページの写真」を添付してメールを送ってください。

④ 採否は内定解禁日にメールにて連絡します。

### その他

・設定してある面談日程で都合のつかない場合は、相談してもらえれば調整可能な日時もあります。

## テーマ：教育学的研究による日中社会の比較

### 【授業の主旨】

「一人っ子政策」は中国社会を理解するための重要なキーワードである。それが転換期を迎えた今、そしてこれから、中国社会をどのようなキーワードで概念化できるのだろうか。

1980年代から継続された「一人っ子政策」が「二人っ子政策」、「三人っ子政策」への転換が完成した中国、18歳人口が減少しつつある日本。ともに深刻な高齢化社会の問題を抱えている。当演習では、日本と中国にある共通の社会問題を見つめ、教育学の観点からの比較分析を通して、隣人（国）同士の相互理解を深めることを目標としている。また、卒論を作成する際、中国語の文献を参考にする人へのサポートもする。

### 【授業計画・授業内容・一部の卒論テーマ】

春学期は、中国に関する基礎知識について学習するほか、2年生の応用演習で学んだ資料検索の方法やレポートの作成といった研究スキルを確実に身につけるようアカデミックリテラシーが中心となる内容である。

秋学期は、卒論の執筆を視野に入れ、受講生それぞれが自分の研究発表を行う。発表者の発表内容を踏まえ、受講生同士で議論を行い、教員がコメントすることで、ゼミ生全員が卒業研究計画を立てることができるよう指導を進めていく。

今年の卒論テーマ：「中国料理からひも解く餃子の位置づけ」「カジノは悪なのか」など。

### 【教科書】

特に指定はない。ただし、中国に関する基礎知識の参考書について、最初の授業時に受講生各自の関心を考慮し、みんなで話し合っ決めていく。基本的に日本語の文献を中心に学習を進めていくことなので、中国語の学習歴がなくても構わない。

### 【成績評価】

受講する態度が大切である。着実に努力する人は評価する。特別な理由がない限り、3回欠席は評価の対象にならない。

### 【面談日時】

冊子の面談日程表の通りである。面談希望者は必ず事前にメールで予約を取ってください。于のメールアドレスは以下の通りである。

yuxiaowei@isc.chubu.ac.jp

## テーマ：国際社会と法について考える

### 【授業の趣旨および目的】

「社会あるところ法あり(Ubi societas, ibi jus.)」と言われるように、国内社会には国内法が、国際社会には国際法があります。法は社会を映し出す鏡であり、法を学ぶことは、その社会について学ぶことでもあると言えるでしょう。このゼミでは、法を通じて、(国内社会と)国際社会を考えてみたいと思います。

具体的には、古今東西の社会で生起する事件や事象を調べ、法がどう関係するのかを読みとり法の解釈・適用を分析し、そこから議論を展開させることを通じて、「Legal Mind」(法的なものの考え方)を身につけることを目的とします。



### 【担当教員の研究分野など】

私は現在、「法学概論」(1年次以降担当)、「国際法」(2年次以降担当)そして「国際機構」(3年次以降担当)などの法律系講義を主に担当しています。

そんな私の専門は、国際法、なかでも海洋法という分野です。海や船に憧れ、海洋生物多様性の保全と利用、海底鉱物資源の開発、海洋境界の画定、世界中の無人島とその法的地位など、気ままに勉強してきました。最近では、太平洋島嶼国の国際関係にも関心を広げています。

### 【ゼミではこんなことをします】

**3・4年生合同、火曜5/6, 7/8限の予定です。**同じ関心を持つ上級生と仲良くなれます(上級生：男2・女3)。

3年生には「① 個別研究」と「② 課題研究」が求められます。①は、卒論テーマを見据えて、自らテーマを決めて研究し、発表します。②は、教員が指示するテーマ(判例紹介、学内ESD発表会やインカレの合同ゼミ発表会などを念頭に決定)を、各自又はグループで研究し、発表します。「説得的なプレゼン」方法、論文の作成方法について、細かな指導を受けることができます。ゼミ生が少ない場合は、国際判例の輪読などを行う予定です。

4年生になれば、就職活動を優先しつつ、卒論の中間報告を何度か行いながら、卒論作成を進めていきます。毎年の恒例イベントとして、春に名古屋地裁法廷見学+新ゼミ生歓迎会、夏合宿、スポーツ大会など、**イベントへの参加は自由ですが、参加するほどゼミが楽しくなります。**以上、文章で書けば難しそうですが、意外に楽勝です。

### 【こんな学生に来て欲しいです】

ゼミ生には、私と同じ国際法の研究を義務づける気は、まったくありません。3年生の「個別研究」テーマ及び卒論テーマは、「**国際**」っぽくて、「**法**」にかすっていたら **good**、**マニアックであれば better** と考えます。誰も思いつかないような、思わず2度見したくなるような卒論テーマを期待していますが、もちろん地道な地味な研究テーマでも歓迎します。以上の説明に興味を持ち、かつ以下の条件を満たす学生を、**加々美ゼミ15期生**として歓迎します：



- ① 人の話をよく聞くことができる。あるいは、そうなりたいと思っている
- ② 担当教員の授業(法学概論、国際法)はもちろん履修済(中)である
- ③ それなりに文章を読ませ、プレゼンさせられることは覚悟している
- ④ ゼミの時間くらいなら、スマホに触らず勉強に集中することができる



☞ その他、すべてのゼミ生に求めている約束として、**ゼミの無断欠席は、ダメ。ゼッタイ。**

### 【面談に際しての注意事項】

面談日以外でも面談可・面談日でもお断りする場合がありますので、**必ず事前にメールでアポを取って下さい。**但し、ビジネス・メールのマナーに沿ったメールを下さい。メールアドレスは上のQRコードに。Zoomでの面談も受け付けます。

## 世界経済論－「世界」という視野で考える

- ◆担当教員の研究分野：「人」と「経済」「歴史」「思想」。「世界」という視点から。  
・私の「専門」分野は経済学：世界経済論・国際経済学・国際金融論・貨幣思想…)

### ◆ゼミで学ぶこと

- ・多様な関心をもつ人が集う学部なので、テーマについては、ゼミ生と相談しながら、柔軟に考えます。「経済」にこだわらず、人間・社会について広く深く考える本(古典)を読むことが多いです。

伸びやかに学ぶ喜びを味わえるゼミにしたいです。

### ◆対話を通じた深い学び

- ・対話を通じ、深く探求する姿勢を持ちたいものです。決めつけず、しなやかに。感じることも大切に。
- ・学問の基本は、「対話」にあると思います。そして大学は、結論よりも、考え方(複数の)を学ぶ場だと思っています。互いを尊重し、語り合しましょう。それが文系学部ならではの、ゼミの醍醐味です。

### ◆勉強の内容：（「経済」にこだわらず、広く学ぶ）

- ・「本(古典)の『読み方』を学ぶ」ゼミにしましょう。それは、大学の文系学部だからこそ、できること。大学は、一生学び続けるための基礎を築くところです。

最初はゆっくり、とても初歩的なことから始めます。3年の終わりには、自分でもびっくりするほど、力がついているはずです。学びも遊びと一緒に、真剣にやった方が面白いし、深い喜びが得られます。

- ・3年：みんなでテキストを読み、ディスカッション。レジュメ作成と報告(担当者)。

過去のテキスト：(春学期)ケン・ベラー他『世界の平和をつくった20人』

(秋学期)カント『永遠平和のために』、J.S.ミル『自由論』、など

- ・4年：卒論がメイン(春学期は、何かテキストを決めて読むかも)

### ◆選考について

- ・もし、このゼミを第一志望にするなら、高にメールをください(最初の面接の時は不要です)。

- ・「内定希望」メールには、下記のことを書いてください(できるだけたくさん)

- ①志望動機(ゼミで何を学びたい? なぜこのゼミが第一希望?)
- ②自己紹介(自分の関心、好きなこと、がんばったこと[謙遜せずに])
- ③その他何でも、書きたいことがあったら、どうぞ書いて下さい。

- ◆面談：アポ(約束)なしでもいいですが、予約するのが確実です。

メールあて先:koh@isc.chubu.ac.jp

## テーマ:東アジアの人と文化の交流

### 【授業の主旨】

「東アジア諸地域の人と文化の交流」をテーマとしています。現在の東アジアは観光流動や出稼ぎ、移住などの人的交流、あるいはサブカルチャーまでを含む文化交流が非常に盛んです。また歴史的にも様々な人と文化の交流が行われたことで、現在の社会や文化が形成されており、われわれが今いる日本も例外ではありません。

本演習では、このような視点を持って、韓国を中心としながら、中国・台湾までを含む東アジア諸地域の文化・社会について理解を深め、様々な局面での日本との交流について考察します。

上記のテーマに関して資料収集・報告・討議・レポート作成を行うことで、人文科学系の学生として身につけるべき資料検索・プレゼンテーション能力、文章力を身につけます。なお、ゼミでは簡単な韓国語文献資料や、韓国語映像を用いることがあるので、韓国語の学習経験が全くない場合、ゼミ参加が難しくなるかもしれません。

### 【授業計画】

春学期は、韓国を中心とした東アジアの諸地域に関する基礎知識、資料検索の方法などについて復習を行った後、教員の指示するテーマに沿って、各自担当を決めて資料調査を行い、発表報告を行います。昨年度のテーマは、「韓国を知るためのキーワード」「韓国社会・文化がわかるCM映像分析」を実施しました。

秋学期は、卒業論文について各自おおよそのテーマを決め、その基本的な事項について調査・報告してもらいます。なお、4年生の卒業論文中間発表会があるので、必ず参加してください。またグループワークを行うこともあります。これまで、「韓国アイドルグループと国連SDGsイベント」「東アジアのECサイトの評価」を実施しました。

なお、受講生との相談の上ですが、上記のテーマに沿った海外や国内での研修や、学部学科の各種イベントへの参加について企画・実施する可能性が高いので、理解の上受講してください。

### 【成績の評価】

発表・討論への参加(成績評価の50%)、出席(成績評価の50%)で評価します。出席、発表におけるレジュメの完成度・プレゼンテーションの巧拙と、いかに積極的に討論に参加したかを評価基準としています。特別な理由なしの欠席を3回以上した場合、不合格とします。

### 面談に際しての注意事項

当演習の受講を希望する学生は、①「なぜこの演習を希望するか」、②「自分が(今のところ)追究したい卒業研究のテーマ」について準備してください。また、③ポートフォリオ資料など、自分がこれまでにやってきたことを示せるようにしてください。また④韓国語の履修歴・学習歴、韓国語資格取得歴、韓国をはじめとした海外滞在・留学経験などがあれば、必ず示してください。

### 面談の予約

アポ(予約)なしでも予定時間内であれば面談しますが、できれば事前に下記にメールを送ってください。「面談の時間が合わない」人も一度メール連絡を下さい。

shibuya@isc.chubu.ac.jp



## テーマ:体験学習から学ぶ日中芸術文化の魅力

### 「授業の主旨・目的」

**ゼミ内容:**「なんでも深く研究すれば学問になる」。好奇心旺盛で日中の伝統芸能や芸術そして旅が大好きな学生を対象にしたい。場合によっては国内外での現地調査や文献調査も実施し、音楽人類学と歴史学の視点から音楽芸能や民族地域に隠された多くの謎や暗号を学生と一緒に解読して行きたい。「体験学習」という手法を使いながら一人一人の個性を尊重しながらチームワークを作っていく。

**目的:**本演習では、文化人類学では最も重視する参与調査を実施しながら歴史資料研究或いは翻訳という手法で進める。論理的に語れる人間を育てることより、企画力と執行力そして柔軟的な思考を持つ国際社会に役に立つ人材を育てる事を目指している。

### 「授業計画」

演習 A は①紀元前から日中両国間どのような文化交流があったかについて中国社会科学院から出版された『日中文化交流史』の翻訳を通じて学習していく(翻訳アプリを使用)。②現地フィールドワークの一環としてチベット寺院「チャンパリン」を見学

演習 B は①ゼミの学生へ各自関心のある話題(民俗、芸能、体験など)を提供し、400字の要約、レジュメを準備する。演習では担当者の発表後、全員で討論する。この発表によって、卒業論文のテーマを決めてゆく。②就職活動を円滑に進める準備として、国際貢献や社会貢献の実績を作るため、教室での勉強以外に出来るだけ大学内外で開かれる社会活動や国際交流に参加できるチャンスを増やしていく。これらの体験学習により得た知識、経験やデータも今後の就職活動と卒論の執筆に重要な経験として期待している。

### 「成績の評価方法と基準」

発表・討論への参加 30%、出席率 30%、国際交流活動の参加と参与調査 40%で評価する。

ゼミ内での発表や討論、そして自らの参与調査に関する企画と参加などを評価基準とする。特別な理由がなく3回以上の欠席があると不合格になる。

### 「教科書」

特になし、その時に応じて参考資料を配布する。

### 「面接に際しての注意事項」

当演習の受講を希望する学生は面接の時①どうしてこのゼミを希望するか?②自分が興味を持っている分野。③追求したい卒論のテーマなど、面談の時、十分説明できるように準備してください。

★ ポートフォリオを印刷して持ってくること。

★ メールでの予約をお願いします。

haohaoxuexi@isc.chubu.ac.jp

★ 一人 10分~15分の面談時間



専門分野: 科学史(博物学史、気象学史)、科学技術社会論、博物館学  
テーマ: **博物館は公衆と語り合う最前線(古臭くない!)**

## 【授業の主旨・目的】

博物館は、収蔵品を並べているだけではなく、学芸員が、見る人に問いを投げかけ、ともに語り合う場でもあります。演習では、アメリカの博物館/展示をとおり、博物館と社会文化との関わりを深く考察します。

アメリカの都市や田舎を歩くと、至る所で博物館に遭遇する。たとえばシカゴのオヘア国際空港ではフィールド自然史博物館の巨大なブラキオサウルス骨格標本が屹立する。博物館は非営利団体、営利団体、大学、あらゆるレベルの政府(連邦政府、州政府、市町村、郡など)によって運営されている。博物館は運営形態から内容まで、実に多様であり、気軽に出かけて知的冒険を楽しむ人気の場所となっている。博物館入館者は毎年約8億5千万人おり、これは、野球などのメジャーリーグ全てのスポーツ行事とテーマパークを合わせた入場者より多いほどである。アメリカ博物館協会によれば、博物館はまた、大学の研究者や教授を抑えて、もっとも信頼できる情報源としても認識されている。ものを見て世界の驚異に触れ、知識を増やすというアメリカの博物館文化は、見ることに對するアメリカの人々の思い入れの深さを物語る。自然史、人類学、科学技術、自然センター、樹木園・植物園、動物園、水族館、プラネタリウムなどの科学技術の博物館や科学センターについても、アメリカ人は他国の人より頻繁に行くと言われる。(中略)2009年にヒットした映画《ナイト ミュージアム 2》は、原題に《Night at the Museum: Battle of the Smithsonian》とあるように、スミソニアン協会が舞台となった(同シリーズ1作目の舞台はニューヨークのアメリカ自然史博物館)。

参考文献:

財部香枝「博物館」『アメリカ文化事典』丸善出版、2018:326-327.

財部香枝「スミソニアン協会による科学の可視化戦略:長官ウェイン・クラフの挑戦」『アリーナ』第22号、2019:483-94.

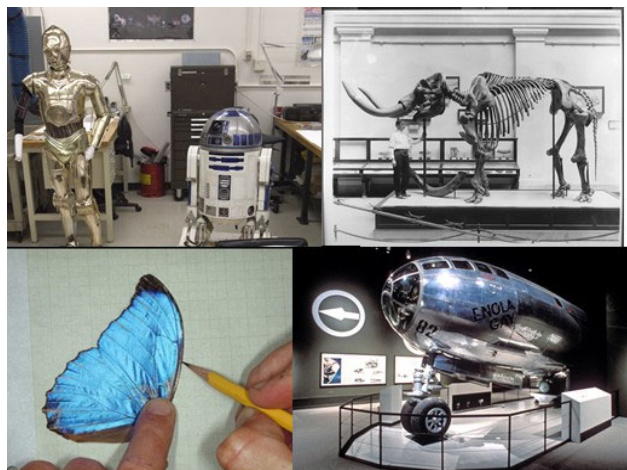
## 【授業計画】

20以上の博物館・美術館、動物園および9箇所の研究所からなる、世界最大の博物館・研究所群であるスミソニアン協会(本部はアメリカ、ワシントン DC)の展示(歴代ファーストレディのガウン、ホープダイヤモンド、ティラノサウルス、火星探査機...)を題材に、何気なく見ている展示の裏にある社会的文化的背景を理解します。担当者の発表後、全員で討論します。要望があれば、実際に博物館を訪れる機会を持ちます。

【評価方法】 発表・討論への「参加」および課題の取り組みを、総合的に判断します。

【教科書】 使用しません。

【面談に際しての注意事項】 最初の4回は面談希望者向け合同説明会となります。必ず参加しましょう。5回目以降はポートフォリオを確認しながら個人面談を行うので、それまでにポートフォリオを充実させておくとういでしょう。面談にあたって予約の必要はありません。



## テーマ:国際協力論、ラテンアメリカ研究、経済学概論

### 【授業の主旨・目標】

本演習では上記の各分野に共通する、データの扱い方について学習します。特にビッグデータなどの、データ分析の基本的な考え方について学びます。

### 【授業計画・方針】

教科書を中心に授業を進めます。また映像教材、資料を利用します。

### 【成績の評価方法】

発表、プレゼンテーション、グループでの議論の際のパフォーマンス、ゼミ活動への参加姿勢などを総合的に判断して成績を評価します。

### 【教科書・参考文献】

伊藤公一朗 『データ分析の力:因果関係に迫る思考法』 光文社新書 780円(税別)

### 【面談希望者へのお願い】

・面談希望者は、メール[takasi@isc.chubu.ac.jp]にて予約を取ること。時間を調整します。もし私からの返信がない場合は、必ず再度メールにて連絡してください。メールの事前連絡がないと、留守にしていることがあります。

・メール本文には、以下の項目について記入すること。

- ① 学籍番号＋氏名、②面談希望日時、③本ゼミ志望の理由(200字以内)、④その他





## テーマ:「モノ」を通して、時代を生き抜く豊かな「想像力」と「創造力」を身につける

### 【授業の主旨・目的】

大学生活もいよいよ後半ですね。今後は人工知能の発達で仕事や社会のありかたが大きく変わるとされていますが、残る大学での学びは、高校まではふれることがなかった学問分野の知識を得るだけで充分なのでしょうか。

私の専門は古代エジプト文明を研究する「エジプト学」ですが、過去のことを探れば探るほど、「物事には必ず始まりがある」ことを痛感します。そしてそこから現在までの流れを見ていくと、未来はこうなるのではと思うことも多いです。時代や地域は変わっても、人間の想いや行動には共通する部分があるので、考古学や歴史学といった学問は、人間が育んできた知恵やその背後にある普遍的な事柄を見出し、今の世の中や未来を考えるためにあるのだと気づかされます。そこでこのゼミでは、**具体的な「モノ(形あるものだけでなく社会現象なども含む)」を通して、時代背景を読み取る豊かな「想像力(imagination)」と、新たな「モノ」を産み出す「創造力(creativity)」を養うことを目的とします。**激動の時代を生き抜く力をぜひ身につけて、卒業後の人生に役立ててもらえれば幸いです。

### 【担当者について】

日本で人類学(主専攻:考古学)、イギリスでエジプト学を学びました。英語が苦手にもかかわらず、思い切って飛び込んだ世界でしたが、そこでのさまざまな経験が、今の仕事や人との交流、研究の方法につながっています。

中部大の前には池袋の古代オリエント博物館で学芸員をしていた関係で、古代エジプト展の監修を引き受けることがあります。エジプトというと、ピラミッドやツタンカーメンが頭に浮かびますが、型にはまった展覧会は嫌いなので、出来上がった展覧会を輸入してただ翻訳するのではなく、自身で企画を立て、海外のミュージアムで現地の学芸員と議論しながらコンセプトや展示作品を練り、会場のレイアウトやデザインなどを考えていきます。そのため、ショップのディスプレイやライティング、色使いなど、モノの見せかたはいつも街中でもチェックしているところです。

また、発掘調査なども行います。学部生の頃は縄文から江戸時代の遺跡まで、名古屋周辺や京都府をフィールドにしていますが、エジプトでは、階段ピラミッドやクレオパトラの時代の神殿調査などを手がけてきました。

### 【どのような人に来てほしいか】

「好奇心が強く、いろんなことから学びたい」人に来てほしいです。知識を広げ、多様なモノの見かたを培うために色々なテーマを持つメンバーでゼミを構成しています。現在のテーマは、木造の高層建築、クレオパトラ、イスラーム、裏原系ファッション、カフェのデザイン、USJ、猫グッズ、クルマの未来などさまざまです。もちろん古代エジプトも大歓迎で、大学院で教えた学生の1人は博士号を取得(古代エジプトで博士号を取れるのは、中部大を含め国内に4大学しかありません)し、他大学で教えています。優秀論文賞を取る学生もいますが、教員としてはあくまで**「物事を表面的に見るのではなく、中身を深く考える体験をゼミ生全員に味わってもらえる」**よう指導しています。

就職先も多彩で、銀行やホテル、商社、カーディーラー、デパート、ドラッグストア、公務員、イギリス留学後に世界的企業に入った人などさまざまですが、**「自身の好きなことを研究し、意見を出し合った時間がとても楽しかった」**と卒業後に言ってもらえることが、何よりの喜びです。なお、ゼミ一番の特徴は**「3年と4年の仲が良い」**ことですが、それを可能にするのは**「まずはやってみる」**をモットーに、興味があることを学外へ観に行ったり、旅行や忘年会を楽しんだり、世の中のトレンドを探るため大須など商店街でグループワークをしたり、と色々な体験を共有することが背景にあります。そうしたことを楽しめる人にとっては、きっと充実した2年間を過ごせるゼミだと自負しています。

### 【面談に際しての注意事項】

現在、学部の役職を務めていて急な会議も入るため、以下のアドレス宛てメールに複数の日時を記し、予約を取って下さい。内定解禁日には募集を終えることも多いため、関心がある人には早めの予約と相談を勧めます(特に第1週目は、まだ様子見の人が多いため狙い目です)。その際に、自身の関心やゼミに興味を持った理由を教えてください。色々な話を聞かせてもらうのを楽しみにしています。tnakano@isc.chubu.ac.jp

## テーマ:文化人類学

### 【授業の主旨】

これまで当たり前のことだと思ってきた様々な考えをもういちど見直してみる。この「既存の概念の相対化」は学問の初めであり、文化人類学はこの目標に向いていると考える。文化人類学が扱うテーマは、誰でもが行っている何気ないありふれた日常生活のことから外国の「不思議な」習慣まで多岐にわたる。具体的には、家族、結婚、性差、ライフスタイル、通過儀礼、交換、宗教、死などがある。現在担当者の中山の関心は、トルコ、イスラーム、女性、近代化、宗教、自然崇拜、イラン、中央アジア、アレヴィー、ヒズル信仰、スーフイズム、性教育などであるが、受講生はこれらにこだわる必要はない。多様な、身近な関心を持って受講してかまわない。中山が担当した1年次の授業「文化人類学入門」に関心をもった学生が望ましい。

### 【授業計画】

この文化人類学ゼミで重要なのは、多岐にわたるテーマそれぞれを緻密に学習していくというよりは、自分のテーマに各自がどのように向き合うかである。「既存の概念の相対化」という文化人類学の基本的な態度を学んで欲しい。授業は以下のようなことを考えている。

- ① 春学期は、文化人類学の入門書等を使って各自の関心を確認する。
- ② 秋学期は、受講者全員が各自興味のあるテーマについて発表する。また、卒業論文作成に向けて、興味あるテーマの文献探索の方法、読書カードによる文献解読などの学習を行う。~
- ③ 秋学期の終わりに卒論についての文章を書いてもらう。卒業1年前に長文を書く練習をすることで自分の言いたいことを人に伝える技術を磨く。

授業であつかう題材は当面は教科書に沿うが、適宜参加する学生が提案してもかまわない。題材は文献とは限らず視聴覚資料や新聞・雑誌などの場合もある。

### 【成績の評価方法】

何よりも授業に対する積極性によって評価する。議論を活発にするために、どんな内容でも自分の素直な意見を率直に言えることが重要である。当演習の理想は「踊るさんま御殿」である。あるお題(テーマ)に対して、自分のエピソード(意見)を語れること、そして、他人のエピソード(意見)につっこみ(コメント)を言えること。つまり、この演習の当面の目標は、活発な議論ができるようになることである。どのようなことでも学問となりうる。それを実感してもらいたい。議論で大いに発言し、議論の題材を自ら提案するなど積極的な態度の学生を高く評価する。

### 【教科書】

受講生の関心に基づいて準備する。

### 【面談に際しての注意事項】

ゼミ面談を希望する学生は、「1. なぜこの演習を希望するか」「2. どういうテーマに興味があるか」などについて文章を書いて持参してほしい(形式自由)。質問があれば、次のアドレスに問い合わせてください。

中山のアドレス: [nuriye39@isc.chubu.ac.jp](mailto:nuriye39@isc.chubu.ac.jp)

面接は集団で行うこともあります。また会議等で面談時間が変更になる場合は研究室のドアに貼っておきます。

**本演習のテーマとキーワード: 国際政治経済学、人間の安全保障、地球環境・ESD(持続可能な発展のための教育)、グローバルとローカル、移民・難民、テロリズム、ジェンダー。**

社会的弱者、差別される側(女性差別、在日、部落など日本のマイノリティグループへの歴史的構造的差別、外国人労働者、留学生、就学生への人種差別)の視点に立って国際関係が理解できるように、批判的に国際政治経済関係を見る眼と考える力を養う。理論的には、批判的国際政治経済学の理論的根拠である、イタリアの政治思想家アントニオ・グラムシの考え方を学ぶ。また実践においては、将来広い意味において社会で役に立つ人間になるよう、ゼミ有志で地域のNGO活動やボランティア活動に参加し、海外研修や国際会議に参加したりする。

国際社会で活躍するための基礎的な能力(人脈のつくりかた、企業、行政との付き合い方や交渉の仕方、企画書の書き方、外部資金の取り方、留学、海外インターンなど)、実践力、実行力が身につくようにもしたい。

## ゼミの目標

このゼミでめざすことは、核や軍事力による国際政治経済構造、権力体制に対して批判的な「ものの見方」を確立し、平和な世界を描き、平和な世界を築くための理論武装を実行・実践することです。卒論や研究テーマは、上記にあげたテーマ・キーワードに沿ったものであれば何でもOKです。現在学生たちが取り組んでいるテーマは、テロリズムや環境・食糧安全保障など国際政治経済関係、ヒップホップやハードロックなどの音楽、サッカー、アテネオリンピックなどのスポーツ、チャンネルなどのグローバルブランドファッション、家族関係、留学生、就学生、県内の外国人労働者など日常の自分に興味のあることを手がかりにして、自分の関心を深めて研究しています。

## 授業方針:

ゼミ活動として大学内や中部地域在住の外国人、NGO、企業人と議論や、料理、音楽などを通じての国際・文化交流も機会があれば積極的に取り入れます。

## 本ゼミに向いている人:

積極的でアクティブな生き方をしたい、グローバルでもローカルでも、どちらでも仕事ができ、世界でも地域でも活躍できる、他人のために役に立つ人間になりたい、平和で持続可能な世界を考えたい、海外体験やNGO活動、ボランティア、地域貢献など好奇心旺盛で元気な学生を求めます。

以下に面接予約のメールをください。

hanochi@isc.chubu.ac.jp

## テーマ: 日本語と英語を通して国際文化研究を深める

### ★授業の趣旨

このゼミの学生は、たくさんの情報の中から必要なトピックを選択し、自分の研究に取り入れていかなければなりません。その英語の情報は、膨大にあります。少人数制のクラスで、教師は各学生の英語での研究をサポートします。もちろん、異文化比較や検証を興味深いものにするために、日本語での研究も不可欠です。卒業論文は、英語と日本語での論文執筆の編集および再編集をサポートします。

### ★研究資料

英語で論文を書くため、学生は卒業論文の焦点を早期に絞り込むことが重要です。そのため、3年生の始めに教師は、様々なトピックを学生に提供し、調査活動が充実するようサポートします。学生の興味に応じたトピックには、以下のものが含まれます。

#### ——英語学習——

「研究トピック」としてではなく、英語能力を大幅に向上させる機会となります。英語の学びについて、モチベーションの高い学生や特別な目標をもっている学生にとって、この2年間は、重要な時期になります。また、将来の目標(仕事、旅行、趣味、音楽や映画など)を達成することになります。

#### ——地政学——

地理が歴史の流れをどのように形成し、世界の様々な地域の時事に影響を与えているか。これらのパワーポイント講義は、英語と日本語の字幕を使用します。学生に最も関心のある地域が対象になります。フォーカスエリアの背景と状況を提供します。

#### ——世界の時事問題におけるアメリカの役割——

- ・ドナルドトランプの政治
- ・気象問題

#### ——太平洋アジア社会政治問題の側面——

- ・ハワイと沖縄の政治問題の比較

#### ——その他のトピック——

- ・アメリカの観点からのライフスキル
- ・ボランティア活動から得られた重要なライフスキル
- ・祝日(例えば、将来の仕事のニーズに合わせて、クリスマスイベントを開催する。)
- ・音楽と映画に通じた英語と文化
- ・海外の日本文化(日本文化が海外でどのように受け入れられ、形作られるか。)
- ・ハワイへのスタディーツアー(学生の興味がある場合)

### ★教科書

教科書はなく、配布資料のみ。

### ★重要事項

研究の重点分野がすでに決まっている場合は、教師に確認してください。教師は、トピックがこのゼミに適しているかどうかを評価します。例えば、日本語のトピックに十分な英語の研究データがない場合には、このゼミには合いません。

受講希望の学生が英語能力に不安がある場合でも、まずは研究室を訪ねてください。

対話を中心にした授業となるため、英語活動、ボランティア活動、文化交流など学生の自主的な取り組みや協力が非常に重要です。このクラスの学生には、教室でのパフォーマンスと行動に期待しています。3年生と4年生として更に期待しています。

### ★面談について

面談希望者はメールにて申し込みをしてください。【higa@isc.chubu.ac.jp】



## 授業目的・到達目標

担当教員の専門分野は民俗学、文化人類学です。ゼミでは、日々の生活の中で「当たり前」に行っている習慣を改めて見直し、歴史的背景や現代社会に生きる私たちの生活実践の中でその意味を問い直していきます。

具体的には、なぜ日本では予言書がベストセラーになっているのか、なぜ日本では受験シーズンになると受験グッズが出回るのか、なぜ日本人はトンネルや黒髪を恐れるのか、なぜ世界中に異界や幽霊や生霊が存在するのかなどの素朴な疑問から考える力を養い、自明性を疑う俯瞰的な視点を獲得することを到達目標とします。

## 担当教員について

担当教員の主な調査地は沖縄県を中心とした日本です。これまでは、村落祭祀、神々、移住者、シャーマニズム、コミュニティの変容に関する研究を中心に行ってきました。卒業研究のテーマは基本的には自由で、必ずしも沖縄や日本に限定しません。しかし、私たちが今まさに生きている日本のことを知らなければ、世界のことはわかりません。よってまずは現代日本を拠点に考え、その上で世界にも目を向けます。

## 授業計画

- ① 3年春学期は民俗学か文化人類学のテキストで各自レジュメを作成、発表し、読む、書く、話す力をつける。
- ② 3年春学期、夏季休暇中、秋学期に合同・単独でフィールドワークを行い、成果を発表する。
- ③ 3年秋学期からは卒業研究を意識したグループワークを行う。4年春学期から卒論の執筆を開始する。

\* 全体を通し、「読む」、「書く」、「話す」力などを確実に培えるよう指導していきます。

※その分、読む、書く、話す機会が多くなります。

## 成績の評価方法等

次のような学生を歓迎します。「フィールドワーク論」か「生活環境と人間」を受講し当該分野に関心を持っている、基本的なコミュニケーションが取れる、チームワークを大切にできる、力をつけたいという意志とやる気や積極性がある、常識人としてのマナーや判断力がある。

## 過去のゼミ生の卒論

- \* 骸骨の聖母サンタ・ムエルテ―聖母像と骸骨の曖昧性から考察する信仰拡大の理由―  
(2022年度国際関係学部優秀論文賞受賞)
- \* 日常的世界からみる在日韓国系日本人のアイデンティティに関する文化人類学的分析  
(2021年度国際関係学部最優秀論文賞受賞)
- \* スタジオジブリ作品に表れる異界観に関する民俗学的研究(2021年度国際関係学部優秀論文賞受賞)
- \* 静岡県島田市金谷の茶摘み娘の労働と位置付けに関する民俗学的研究―現代の茶摘み娘との比較―(2023年度)
- \* 現代イタリアにおける郷土の食材と料理を守る人々―スローフードとアグリツーリズモの観点から―(2023年度)

## 面談について

- \* 事前にメールで予約を取る。(kimeari@isc.chubu.ac.jp)
- \* 件名に「ゼミ面談希望(学籍番号・氏名)」と書く。
- \* 本文に①面談希望日時(第3希望まで)、②なぜこのゼミを志望するのか、③自己紹介、④興味のあるテーマ、⑤(本紙に書いてあること以外で)質問、を書く。
- \* ポートフォリオを添付する。
- \* 平井ゼミを第一希望とする人は3人の教員と面談終了後、メールで早めに知らせてください。

## テーマ: 国際政治学・国際政治史

【授業の主旨・目的】 本ゼミでは、激動する国際情勢を理解することを目的とします。主に国家間の外交関係を中心に国際社会の諸問題を多面的・多角的に考察していきますが、国際機構から個人まで国家以外のアクターも研究対象とします。分析にあたっては、特に歴史的アプローチを重視し、学生が研究したい事例の原因・結果・影響について把握することを目指すつもりです。

担当教員の専門分野は国際政治史/外交史です。具体的には、日本・ヨーロッパ・アメリカなどの外交文書を分析解釈し、歴史を再構成・再評価することを試みています。日本を含めて諸国の外交史料館のホームページから閲覧が可能な外交文書が増えているため、このような多言語的・歴史的研究に挑戦したい学生を特に歓迎します。

ゼミでは、英語・日本語の双方を使用します。担当教員が英語を使ったり、英語の文献や映像などを用いたりすることがあるため、受講者には相応の英語力が求められます。従って、英語で研究指導を受けられる自信がない学生に、本ゼミは向いていないかもしれません。しかし、受講者は日本語で参加したり、日本語で卒業論文を書いたりすることについては問題ありません。The working language of the seminar will be both English and Japanese. Since the instructor will mainly use English, students are expected to have a strong grasp of the English language to understand class materials, receive research guidance, and follow instructions. However, students have the option to engage in Japanese and are generally expected to write their bachelor papers in Japanese.

【授業計画】 受講者と相談の上、ゼミの具体的な進め方を決定します。

【成績の評価方法】 ゼミの運営面でも勉強面でも、受講者の積極性と自主性に大いに期待します。受講者と一緒にゼミを作り上げていきたいので、報告・プレゼン・討論を含む積極的な参加が求められることを意識しておいてください。また、特別な理由がない限り、無断欠席は認められません。

【教科書】 ゼミで扱う資料については、検討中です。受講者の関心も重視したいので、本ゼミを希望する学生からの提案も柔軟に受け入れます。Please be reminded that also English language materials will be used, including news reports, articles, book excerpts, and audiovisual media.

【面談に際しての注意事項】 本ゼミを希望する学生は、メールで面談を予約してください：  
[nicholas.peeters@fsc.chubu.ac.jp](mailto:nicholas.peeters@fsc.chubu.ac.jp) .

その際、件名に「ゼミ面談希望(氏名・学籍番号)」を記入し、本文で、①「本ゼミを希望する理由」、②「今現在興味・関心があるテーマ」、③「ゼミでやりたいこと」、④「冊子の面談日程に沿って、複数の面談希望日時」をできるだけ具体的に記してください。

担当教員はメールのやり取りを基本的に英語で行いますが、ゼミ希望者は日本語で連絡しても構いません。

## ● 激動の世界を読む（ビジネス、公共政策、行財政などについての勉強を一つのきっかけとして）

国際情勢は今複雑さと不確実性が増している中、ダイナミックに変化している世界をどのように読み、分析し、予測していけるのか、将来、世界の舞台で羽ばたいていく国際学科の皆さんにとっては、非常に大事なスキルになる。

**卒論テーマの設定について：指導可能であれば、ジャンル、フィールドを問わない。**

## ● ゼミの目指す能力：

- ♪ 国際的教養、適応力、語学力
- ♪ 人間力、思考力、コミュニケーション能力、持続力
- ♪ 専門力、洞察力、論理力、分析力、判断力、行動力、実践力、協働力、リーダーシップ

## ● 教育方針とゼミの研究活動：「千里の行」 **讀万卷書，走万里路 知行合一**

2500 前の中国賢者の老子は「合抱之木，生于毫末；九层之台，起于累土；千里之行，始于足下」（合抱の木も毫末より生え、九層の台も累土より起こり、千里の行も足下に始まる）との言葉がある。この「千里の行」はゼミの合言葉としたい。ゼミ生はそれぞれの才能を生かしながら大きく成長し、世界に大きく羽ばたいていくために、まずその基礎を固めることが必要で、それを実現するためには、ゼミ生の自主性を発揮し、知識の蓄積と同時に、海外フィールドワーク研修調査、研修交流などの活動が行われてきた。

できるだけそれぞれの特長、性格に合わせ、ゼミ生は自分の才能を発見することを手助けし、目標を実現するための力を伸ばすよう全力にサポートしていきたい。勉強のおもしろさを体感してもらい、失敗や挫折を恐れずに、高い志を持ちながら、チャンスを手にする力を蓄え、どんな時代でも、どこにいてもがんばっていけるという自信と強い精神力を持ってもらえるように、みなさんと一緒に協力し合い、真剣に取り込んでいきたい。

本演習は**二本柱**で取り込んでいく。

**その一**、卒業研究はゼミ生の関心の高い内容を中心に、それぞれの興味ある対象を見極め、全体像をつかむため、疑問を掘り下げ、学際的、複眼的な視点から取り込み、読書、討論、議論を通して、みなさんの論理的思考力、分析力、洞察力を高め、良い卒論を完成することを目標としたい。データ収集、分析のノウハウも身に付けてもらいましょう。

**その二**、就職相談、就活指導、ディスカッション、プレゼンの訓練などの就職サポートを積極的に行いたい。

担当教員のネットワークを用いて、

**ゼミ生の学内外での国際経験、社会経験など諸活動についてバックアップ、支援する**

## ● ゼミ生に望むこと：

- ♪ 積極性、主体性
- ♪ やるなら（体の許す範囲で）ベストを尽くすこと。最後までやり遂げること。
- ♪ 時間の概念を持つこと。♪ 約束を守ること。♪ チャレンジ精神
- ♪ よく考えて、互い議論すること。
- ♪ 友情：ゼミ生仲間を大切に、互い切磋琢磨、助け合い、ともに進歩していくこと。

## ● ゼミの担当教員について：

学位：哲学学士（中国・復旦大学） 経済学修士（埼玉大学） 博士（経済学）（横浜国立大学）

専門分野： 財政学、地方財政論、公共政策論、社会保障論、中国経済論

担当している（いた）学部科目：

国際公共政策論、グローバルビジネス論、国際金融論（代講）、国際関係データ分析、地域開発論、制度経済学、環境論、環境と開発、ガバナンスと開発、開発マネジメント論、中国経済論、国際関係論、中国ビジネス論 ほか

担当している大学院科目： 国際公共政策特論、発展途上国論、社会開発論、研究方法論ほか

## ● 面談に際しての注意事項：

- まず面談希望日時を複数伝え、メールかラインでアポを取ってください。E-mail：cu11217@fsc.chubu.ac.jp
- アンケートの提出は必須。アポ取った後にアンケートファイルを送り、メールで返信か持参するように。
- 面談可能な日時： 月曜日・木曜日 13:00~16:00 火曜日 17:00~18:00 水曜日 12:55~13:30  
できるだけ柔軟に対応するので、相談がある場合は気軽にメールかラインで連絡ください。

## テーマ:東アジア、中国語圏の社会と文化を文字・映像などから考察する

### 【授業の主旨・目標】

本演習では、中国・台湾のみならず、東アジア地域、中国語話者の居住する広義の中国語圏の文学、映画、ドラマ、写真、ファッション、流行音楽などを通して、それを産み出した社会と文化について考えます。また、2年までの演習科目で学んだ、テーマの発見、資料の読解、調査と分析、報告といった研究スキルを実践的に復習し、卒業論文の執筆に備えます。

ちなみに私は、これまで中国近現代文学を学んできました。なかでも1980年代以降の文学作品、作家の組織や文学賞といった文学を産み出す制度に関心を持っています。ですがこの授業では、文学のみを対象にするのではありません。人間が自らの眼で見て、頭で考えてイメージしたことを、映画や音楽、ファッションなどさまざまな形で再現しようとしたもの(表象文化と言うこともあります)について調べたり、考えたり、それが一体どういうことなのか他の人に説明したい人ならどなたでも大歓迎です。

また、中国語のさらなるスキルアップをはかり、中国語で学ぶことに熱く挑戦したい人もお待ちしております。可能な限りサポートします。でも、中国語の学習歴がなくても全然構いません。

### 【授業計画・方針】

春学期には、東アジア地域、中国語圏の現代文化についての概説書やブックガイドなどを輪読して、この地域の文化や社会について幅広く知識を増やしていきましょう。その中で自分の関心が持てるテーマをだんだんと絞っていきましょう。全く焦る必要はありません。「面白い、感動した」が入り口です。理論だけでなく、たくさんの作品にも触れることが大切です。秋学期には、自らが選んだテーマについて発表し、参加者どうしで議論を重ね、より深く理解し考えて行きましょう。そして、卒業研究のために計画を立て、必要な作業を進められるよう指導します。

### 【こんな人、お待ちしております】

- ・資料(文字／映像ほか)に触れるのが好きな人
- ・他の受講生とともに積極的にゼミの活動に関われる人
- ・人の話をよく聞き、自分の意見をはっきり伝えようと努力できる人

### 【教科書・参考文献】

受講者の要望や必要に応じて指定します。近年では、岡本隆司『中国の論理』(中公新書、2016)、大東和重『台湾の歴史と文化』(中公新書、2020)、赤松美和子『台湾を知るための72章』(明石書店、2022)を読みました。

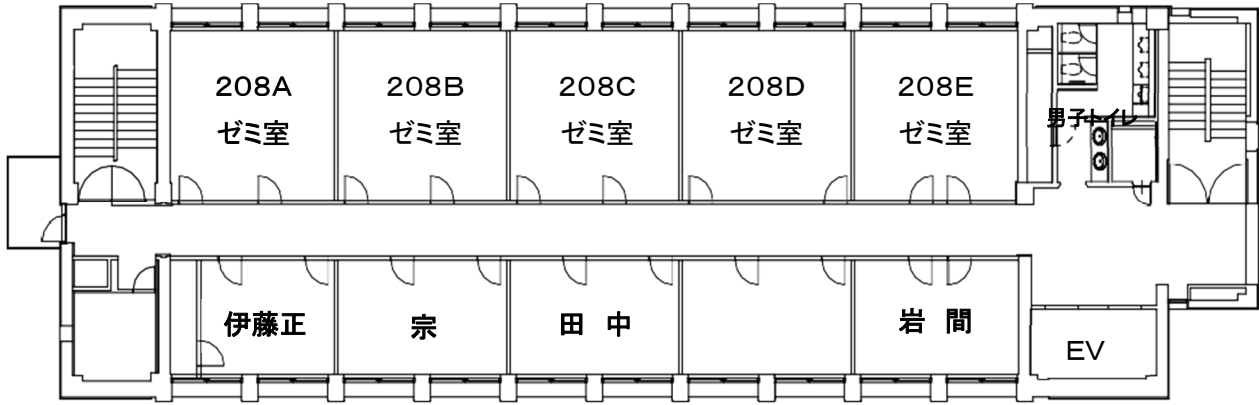
### 【面談希望者へのお願い】

- ・基本的に対面で面談します。面談希望者は必ずメール [twada@isc.chubu.ac.jp] にて予約を取ってください。遅くとも24時間以内には返信いたします。
- ・メール本文には、以下の項目について記入してください。

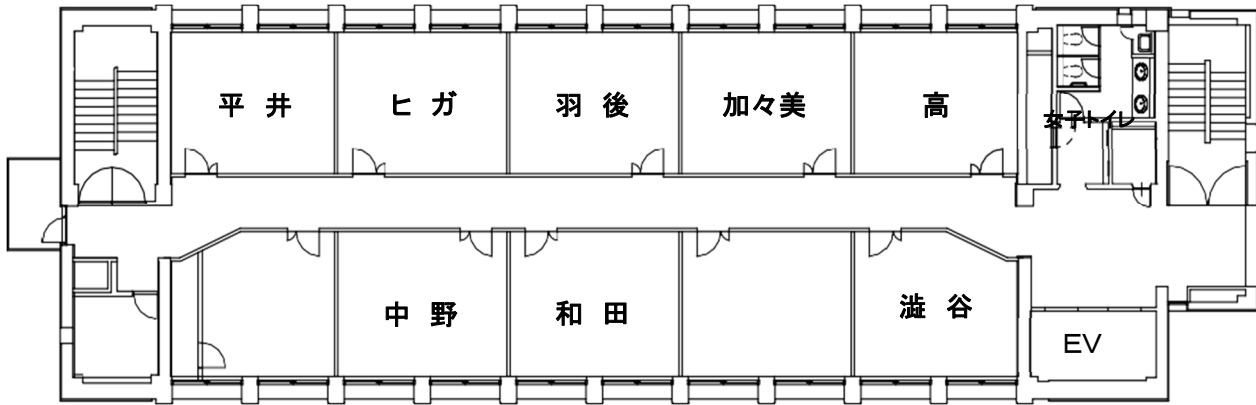
- ① 学籍番号+氏名、②面談希望日時、③本ゼミ志望の理由(400字以内)、④ゼミで取り組んでみたいこと(400字以内)、⑤その他(Zoom面談、1対1の面談を希望する場合など)



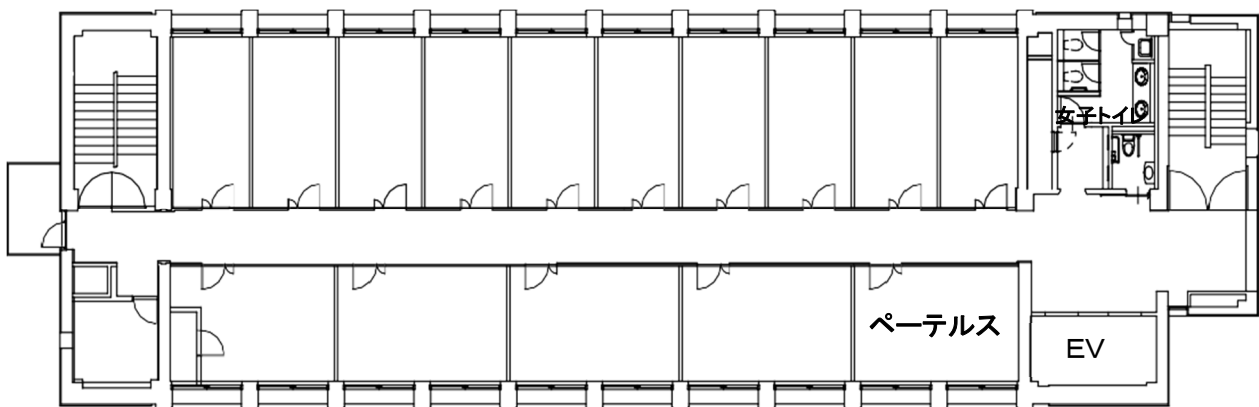
# 国際専門演習 A・B 担当教員の研究室



8 階

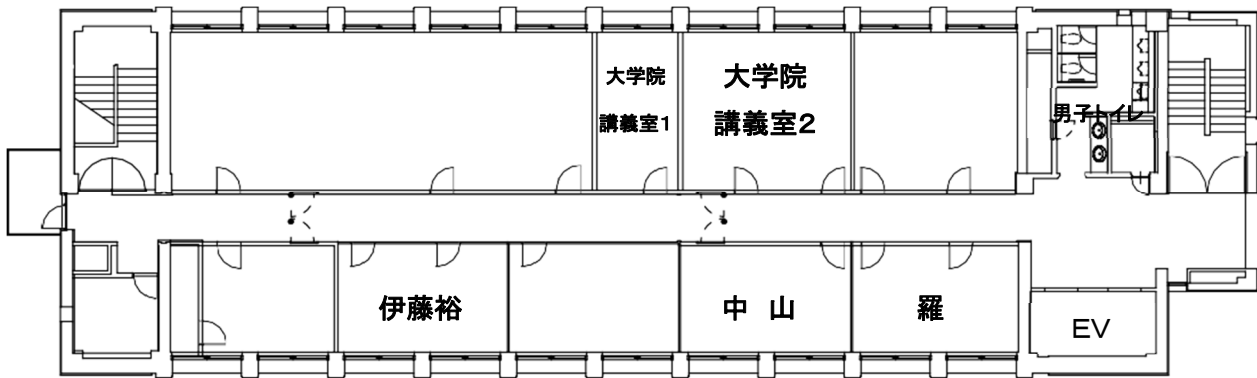


7 階

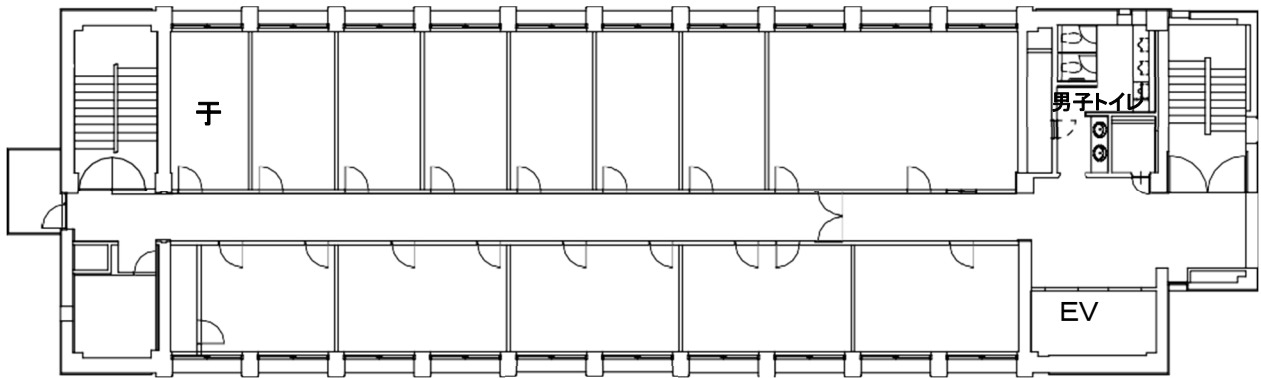


5 階

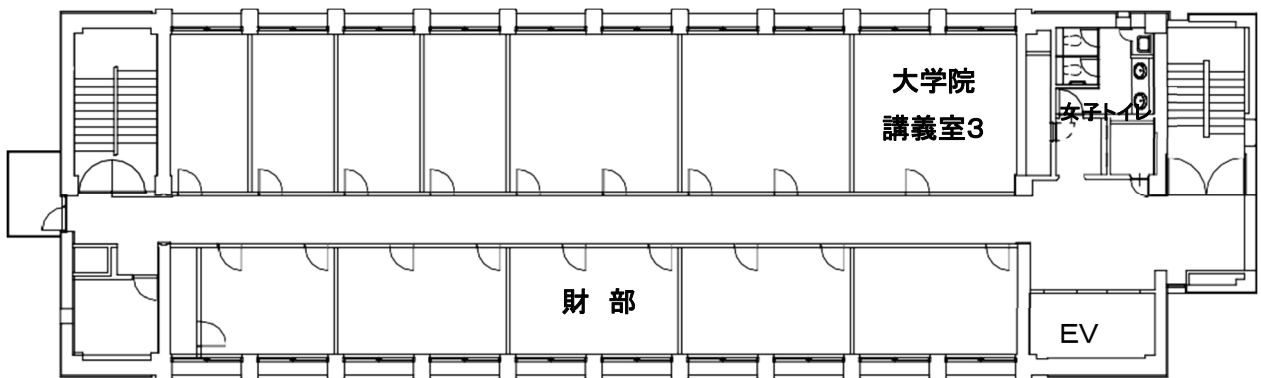
20 号館



12 階



10 階



9 階

20 号館

# 面談日程表

(場所：特に記載がない場合は、研究室)

	月	火	水	木	金
※敬称略	11/6	7	8	9	10
伊藤 (正)					(伊藤正晃)11:00-19:00
伊藤 (裕)			(伊藤裕子)11:00-13:00, 14:00-15:00	(伊藤裕子)17:00-17:30	
岩間			(岩間)11:00-17:00		
于			(于)14:00-15:00 【20号館9階大学院講義室3】	(于)17:00-17:30 【10号館5階105G】	
加々美			(加々美) 10:30-	(加々美)13:00-	(加々美)15:00-
高			(高)12:30-13:30		(高)13:00-13:30
濹谷				(濹谷)15:30-18:00	(濹谷)15:30-17:00
財部			(財部)13:00-13:10① 13:10-13:20② 合同説明会【20号館9階大学院講義室3】	(財部)13:00-13:10③ 13:10-13:20④ 合同説明会【20号館9階大学院講義室3】	(財部)12:30-13:30
田中					
宗				(宗)10:00-13:00	(宗)13:00-13:30, 15:30-17:30
中野			(中野)中野ゼミの紹介ページを良く読み、 メールで面談日時の予約をすること		
中山					(中山)13:00-14:00, 14:30-15:30
羽後				(羽後)16:00-17:30	(羽後)17:00-17:30
ヒガ			(ヒガ)9:00-15:00	(ヒガ)13:00-15:00	(ヒガ)9:00-15:00
平井			(平井)10:00-12:00	(平井) 14:00-14:50	(平井)10:00-12:00
ペーテルス			(ペーテルス)15:20-16:00	(ペーテルス)15:20-16:00	
羅			(羅)12:55-13:30 【20号館12階大学院講義室1】	(羅)13:00-16:00 【20号館12階大学院講義室1】	
和田				(和田)17:00-18:30	(和田)17:00-18:30
※敬称略	13	14	15	16	17
伊藤 (正)	(伊藤正晃)11:00-19:00	(伊藤正晃)17:00-19:00			(伊藤正晃)11:00-19:00
伊藤 (裕)		(伊藤裕子)11:00-13:00, 14:00-18:00	(伊藤裕子)11:00-13:00, 14:00-15:00	(伊藤裕子)17:00-17:30	
岩間		(岩間)11:00-12:00	(岩間)11:00-15:00		
于	(于)15:00-17:00 【20号館9階大学院講義室3】	(于)14:00-15:00 【20号館9階大学院講義室3】	(于)14:00-15:00 【20号館9階大学院講義室3】	(于)17:00-17:30 【10号館5階105G】	
加々美	(加々美)10:30-, 15:30-	(加々美)15:30-	(加々美)10:30-, 15:30-	(加々美)Negotiable	(加々美)13:00-
高		(高)17:00-17:30	(高)12:30-13:30		(高)13:00-13:30
濹谷	(濹谷)15:30-18:00		(濹谷)13:30-15:00	(濹谷)15:30-18:00	(濹谷)15:30-18:00
財部	(財部)12:30-13:30	(財部)12:50-13:30	(財部)12:30-13:30		(財部)12:30-13:30
田中		(田中)12:00-13:00	(田中)12:00-13:00, 14:00-15:00	(田中)12:00-13:00	
宗		(宗)15:30-17:00	(宗)10:00-12:00, 12:30-15:00	(宗)10:00-13:00	(宗)13:00-13:30, 15:30-17:30
中野	(中野)中野ゼミの紹介ページを良く読み、 メールで面談日時の予約をすること				
中山	(中山)14:30-15:30	(中山)14:30-15:30			(中山)14:30-15:30
羽後	(羽後)12:30-15:30	(羽後)13:30-15:30			
ヒガ	(ヒガ)13:00-17:00		(ヒガ)12:00-16:00	(ヒガ)13:00-17:00	(ヒガ)13:00-17:00
平井		(平井)10:00-12:00	(平井)10:00-12:00	(平井) 14:00-14:50	(平井)10:00-12:00
ペーテルス	(ペーテルス)11:15-13:30		(ペーテルス)15:20-16:00	(ペーテルス)15:20-16:00	
羅	(羅)13:00-16:00 【20号館12階大学院講義室1】	(羅)17:00-18:00 【20号館12階大学院講義室1】	(羅)12:55-13:30 【20号館12階大学院講義室1】	(羅)13:00-16:00 【20号館12階大学院講義室1】	
和田		(和田)15:30-17:00	(和田)15:30-17:00	(和田)17:00-18:30	(和田)17:00-18:30

# 面談日程表

(場所：特に記載がない場合は、研究室)

	月	火	水	木	金
※敬称略	<b>20</b>	<b>21</b>	<b>22</b>	<b>23</b> 勤労感謝の日	<b>24</b> 内定解禁日
伊藤 (正)	(伊藤正晃)11:00-19:00	(伊藤正晃)11:00-14:00, 17:00-19:00	(伊藤正晃)14:00-19:00	X	(伊藤正晃)11:00-19:00
伊藤 (裕)		(伊藤裕子)11:00-13:00, 14:00-18:00	(伊藤裕子)11:00-13:00, 14:00-16:30		
岩間		(岩間)11:00-12:00	(岩間)11:00-17:00		
于	(于)15:00-17:00 【20号館9階大学院講義室3】	(于)14:00-15:00 【20号館9階大学院講義室3】	(于)14:00-15:00 【20号館9階大学院講義室3】		
加々美	(加々美)10:30-, 15:30-		(加々美)15:30-		
高		(高)17:00-17:30	(高)12:30-13:30		(加々美)13:00- (高)13:00-13:30
濹谷	(濹谷)13:30-15:30				(濹谷)13:30-18:00
財部	(財部)12:30-13:30	(財部)12:50-13:30	(財部)12:30-13:30		(財部)12:30-13:30
田中					
宗	(宗)12:30-15:00	(宗)15:30-17:00	(宗)10:00-13:30		
中野	(中野)中野ゼミの紹介ページを良く読み、 メールで面談日時の予約をすること				(中野)中野ゼミの紹介ページを良く読み、 メールで面談日時の予約をすること
中山	(中山)14:30-15:30	(中山)14:30-15:30		(中山)14:30-15:30	
羽後	(羽後)15:30-17:30	(羽後)15:30-17:30			
ヒガ	(ヒガ)12:00-17:00		(ヒガ)12:00-17:00	(ヒガ)12:00-17:00	
平井		(平井)10:00-12:00	(平井)10:00-12:00, 15:30-16:30	(平井)10:00-12:00	
ペーテルス	(ペーテルス)11:15-13:30		(ペーテルス)15:20-16:00		
羅	(羅)13:00-16:00 【20号館12階大学院講義室1】	(羅)17:00-18:00 【20号館12階大学院講義室1】	(羅)12:55-13:30 【20号館12階大学院講義室1】		
和田	(和田)15:30-17:00		(和田)15:30-17:00	(和田)17:00-18:30	
※敬称略	<b>27</b>	<b>28</b>	<b>29</b>	<b>30</b>	<b>12月1日 提出期限 16:00まで</b>
伊藤 (正)	(伊藤正晃)11:00-19:00				
伊藤 (裕)		(伊藤裕子)11:00-13:00, 14:00-18:00	(伊藤裕子)11:00-13:00, 14:00-16:30	(伊藤裕子)17:00-17:30	
岩間		(岩間)11:00-12:00	(岩間)11:00-17:00		
于	(于)15:00-17:00 【20号館9階大学院講義室3】	(于)14:00-15:00 【20号館9階大学院講義室3】	(于)14:00-15:00 【20号館9階大学院講義室3】	(于)17:00-17:30 【10号館5階105G】	
加々美	(加々美)10:30-, 15:30-	(加々美)10:30-, 15:30-	(加々美)10:30-, 15:30-	(加々美)Negotiable	(加々美)13:00- (高)13:00-13:30
高			(高)12:30-13:30		
濹谷	(濹谷)13:30-17:00			(濹谷)15:30-18:00	
財部					
田中				(田中)12:00-13:00	
宗		(宗)15:30-17:00	(宗)12:30-16:00	(宗)10:00-13:00	(宗)13:00-13:30
中野	(中野)中野ゼミの紹介ページを良く読み、 メールで面談日時の予約をすること				(中野)-15:00 中野ゼミの紹介ページを良く読み、 メールで面談日時の予約をすること
中山		(中山)14:30-15:30			
羽後					
ヒガ					
平井		(平井)10:00-12:00	(平井)10:00-12:00, 15:30-16:30	(平井) 14:00-14:50	
ペーテルス	(ペーテルス)11:15-13:30		(ペーテルス)15:20-16:00	(ペーテルス)15:20-16:00	
羅	(羅)13:00-16:00 【20号館12階大学院講義室1】	(羅)17:00-18:00 【20号館12階大学院講義室1】	(羅)12:55-13:30 【20号館12階大学院講義室1】	(羅)13:00-16:00 【20号館12階大学院講義室1】	
和田			(和田)15:30-17:00	(和田)17:00-18:30	

# 国際関係学部 2024年度ゼミ希望票

最後にこの用紙を、「12月1日(金)16時」までに、国際関係学部事務室に提出すること  
(コピー、スマホの写真などで、控えをとっておくこと)

【学籍番号】	NA
【名前】	

■面接した教員氏名【3人以上!】(対面なら教員が、オンラインなら学生が記入)

面接日	教員氏名	面接方式	面接日	教員氏名	面接方式
		対面・オンライン			対面・オンライン
		対面・オンライン			対面・オンライン
		対面・オンライン			対面・オンライン

■内定のサイン(教員が記入) ←忘れずに教員に頼んで書いてもらおう ★教員は日付も記入

--

■希望するゼミ(学生が記入)

希望順位	希望するゼミの教員名
1	(内定をもらった場合、そのゼミ名)
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	

○内定をもらっている人(上の「内定のサイン」がある人)は、「第1希望」だけでよい。  
○内定をもらっていない人は、第1希望のゼミに入れられないかもしれない。その場合、調整の必要があるため、念のために第10志望まで書くこと(書かないと、まったく希望しない教員のゼミに配属される可能性がある)。

■連絡先 (ゼミ選考で連絡が必要な場合のために。それ以外の目的には使いません。)

携帯電話	
携帯メール	

受付印

--

## ゼミに関する重要なこと

ゼミ（「国際専門演習 A・B」「卒業研究」）は、一人の教員のもとで少人数のゼミ生が2年間にわたって学ぶ、必修単位の授業です。たいへんやりがいのある、文科系の学部の大きな柱ともいえるものです。

ただし、教員とゼミ生が固定されるため、下手をすると密室的になりかねず、トラブルが起こる可能性もあります。ゼミ運営に関して、教員には細心の注意・配慮が求められます。

もし、ゼミに関して困ったことがあったら、どうぞご相談ください。ゼミの教員に直接言いにくいときは、相談しやすい教員や事務室の方に話をしてみてください。

基本的に、一度選んだら、ゼミを変更することはできませんが、やむをえない事情があると判断される場合は、所属ゼミを変更することも考慮します。ただし、その場合、希望するゼミに移れるかどうかは分からない、ということをご承知おきください。

2023年11月

国際関係学部長 中野 智章

国際学科主任 伊藤 裕子